

## 様式 F-7-1

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号 

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学

3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 補助事業期間 平成23年度～平成25年度

5. 課題番号 

2	3	7	3	0	5	4	2
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題 利用者の・支援者による・当事者のための「福祉ライフソグシステム」の実証研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
0 0 3 8 3 5 2 1	シバタ クニオミ 柴田 邦臣	社会情報学部	准教授

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

## 9. 研究実績の概要

日本の福祉現場は、「書類にはじまり書類に終わる」とまで言われ、その硬直化が問題とされてきた。本研究は、介護・療養記録、そしてそれらが無い高齢者や障害児といった当事者に対しては、介護のさいの会話などといった、“支援者のための記録”を、高齢者や障害者が自らの生活向上と、主体性の源泉としうるような「ライフソグ」へと転換していく情報システムの構想と試験的実証を目指している。

本年度は、実際に「ライフソグ」のシステムを試作し、その運用試験に取り掛かるという実績を得た。前年度までの福祉構造の把握を経て、具体的なフィールドへの定着を志しているところである。

日本の福祉社会の現代性、社会構造そのものは、2011年3月11日に大きく変容した。本研究では、東日本大震災の特徴である被災地の高齢化・過疎化を、社会問題として正面からとらえ、仙台市・山元町・東松島市など宮城県の被災地での状況把握に努め「福祉情報システム」構想に結び付けてきた。本年度は昨年のその成果を生かしつつ、実際のシステム開発に力を入れ、具体化を試みた。柴田(2012)、吉原(2012)らは、昨年度から引き続く、被災地での高齢・障害者の現状や、地域福祉構造分析の成果である。それらを活かしたシステム開発は、2つの面で実施された。まず、前年度からの被災高齢者にターゲットを絞ったシステム構想を進め、その実績は服部ほか(2012)、Shibata(2012)などにおいて、一定の結果をみることとなった。それらを活かし、本年度は「福祉向けライフソグシステム」の具体的な開発をおこない、試作アプリの社会的な実証に入っている。